

枕草子「春はあけぼの」テスト対策練習問題と過去問まとめ①

年	組	番	名前
---	---	---	----

次の「枕草子」の原文を読んで問いに答えなさい。

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこし明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月の頃はさらなり。闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るも、をかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝所へ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず。霜のいと白きも、またさらでも、いと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりて、わろし。

問1 枕草子の作者を漢字で答えなさい。

問2 枕草子が成立した時代を答えなさい。

問3 枕草子の文学的ジャンルを答えなさい。

問4 枕草子と同じ文学的ジャンルの作品を次の中から2つ選び、○で囲みなさい。

- ア：徒然草
- イ：源氏物語
- ウ：方丈記
- エ：土佐日記



問5 春の中で作者が「をかし」と感じている時刻はいつか。本文から抜き出して答えなさい。

問6 夏の中で作者が「をかし」と感じている時刻はいつか。本文から抜き出して答えなさい。

問7 秋の中で作者が「をかし」と感じている時刻はいつか。本文から抜き出して答えなさい。

問8 冬の中で作者が「をかし」と感じている時刻はいつか。本文から抜き出して答えなさい。

問9 「あけぼの」の「枕草子」の中で使われている意味を次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：明け方
- イ：陽の光
- ウ：夕焼け
- エ：うす明かり

問10 「やうやう」を現代仮名遣いに直しなさい。

問11 「やうやう」の「枕草子」の中で使われている意味を次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：やっと
- イ：いつのまにか
- ウ：だんだんと
- エ：どんどんと

問12 「山ぎは」を現代仮名遣いに直しなさい。



問13 「山ぎは」の対比として用いられている言葉を本文より抜き出して答えなさい。

問14 「山ぎは」と「山の端」について説明している次の文のうち、正しいものを選び○で囲みなさい。

ア：「山ぎは」は山と空の境目を意味するのに対し、「山の端」は山の裾のことを意味する。

イ：「山ぎは」は山が空に接する部分の意味するのに対し、「山の端」は空が山に接する部分の意味する。

ウ：「山ぎは」は空が山に接する部分の意味するのに対し、「山の端」は山が空に接する部分の意味する。

エ：「山ぎは」は山の輪郭を意味するのに対し、「山の端」は山の広がりの意味する。

問15 「月の頃はさらなり」の「なり」の文法的説明として正しいものを次の中から選び○で囲みなさい。

ア：断定の助動詞「なり」の終止形

イ：伝聞の助動詞「なり」の終止形

ウ：四段活用の動詞「なる」の連用形

エ：ナリ活用の形容動詞の活用語尾

問16 次のうち、「の」の用法が他とは違うものを1つ選び、○で囲みなさい。

ア：雲の細くたなびきたる

イ：月の頃はさらなり

ウ：蛍の多く飛びちがひたる

エ：夕日のさして

問17 「さらなり」の「枕草子」の中で使われている意味を次の中から選び、○で囲みなさい。

ア：まったくだ

イ：それ以上だ

ウ：言うまでもない

エ：さっぱりだ



問18 「なほ」を現代仮名遣いに直しなさい。

問19 「闇もなほ」とあるが、何に対して言っているのか。本文より抜き出して答えなさい。



枕草子「春はあけぼの」テスト対策練習問題と過去問まとめ①（解答）

問1 清少納言

問2 平安時代

問3 随筆

問4 ア・ウ

問5 あけぼの

問6 夜

問7 夕暮れ

問8 つとめて

問9 ア

問10 ようよう

問11 ウ

問12 やまぎわ

問13 山の端



問 | 4 ウ

問 | 5 エ

問 | 6 イ

【解説】ア・ウ・エは主格の「の」であるが、イは連体修飾格の「の」である。

問 | 7 ウ

問 | 8 なお

問 | 9 月の頃

